

愛知・岩倉城遺跡



(名古屋北部)

岩倉城は、織田信長の居城清須城の北北東約8kmに位置し、五条川右岸の標高約10mの自然堤防上に立地する。県道が岩倉城本丸跡の北部を東西に横切るために事前発掘調査を実施した。発掘調査では掘立柱建物・土壇・溝等を検出した。内堀と推定される幅約6m、深さ約2mの溝から、土師質皿、瀬戸・美濃系陶器、中国陶磁、木製品、竹製品等が多数出土した。木簡は

- 1 所在地 愛知県岩倉市下本町字城跡
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)一月～三月
- 3 発掘機関 財愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 平野 清・平田睦美・松原隆治
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代後期、古墳時代中期、室町時代後期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

二点ともこの溝の最下層から出土した。なお城跡の下層では方墳や弥生後期の住居跡を確認した。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「×_※ 羈鬼急々如律令 羈」 210×22×1 051

「×」は以点もしくは水点、次は梵字で ham、その下は符録、「急々如律令」は呪句、「羈」は四縦五横で「臨兵闘者皆陳烈在前」の九字を意味する。符録に申でなく甲を用いていることから、病氣祓いの呪符木簡と考えられる。

- (2) 「×□_羈□×」 (60)×23×1 019

以点の下は梵字 Eib 、符録「羈」の次は「屍」の可能性が大きい。(1)と同じく、病氣祓いのための呪符木簡と考えられる。

釈文・内容について、奈良大学水野正好、奈良国立文化財研究所加藤優の両氏の御教示を得た。

(松原隆治)

